

本日の概要

Forest システムで整理された認知活動を行動に落とし込むための支援方法を提案
学習者の状況をシステムが捉え、学習者に理解可能な形で示すことで、
自身の状況がわかり、場に応じて効率よくプランニングできる状態を目標とする

➤ 本日のアジェンダ

- 前回の MT で議論したこと
- 今回考えてきたこと
- 今考えていること

➤ 前回の MT で議論したこと

- 問題細分化スキルについて提案
- Forest システムとの差、本研究の長所は何か
- 自身の研究を位置づける必要がある

支援したい能力・学習者と研究の新規性を明確にし、MT に持ってくる

➤ 今回考えてきたこと

- 自分は問題解決というテーマでも特に、行動レベルの支援をする
 - Forest システムでは認知活動でなにが重要だけで考えるべき順番は不明
 - 整理した思考活動を効率よく適切に行動に移すにはどうすべきか
 - やるべきことがわかっているが、どうすればいいのかわからない
- 困難性 1.今すべきこと（優先順位）がわからない

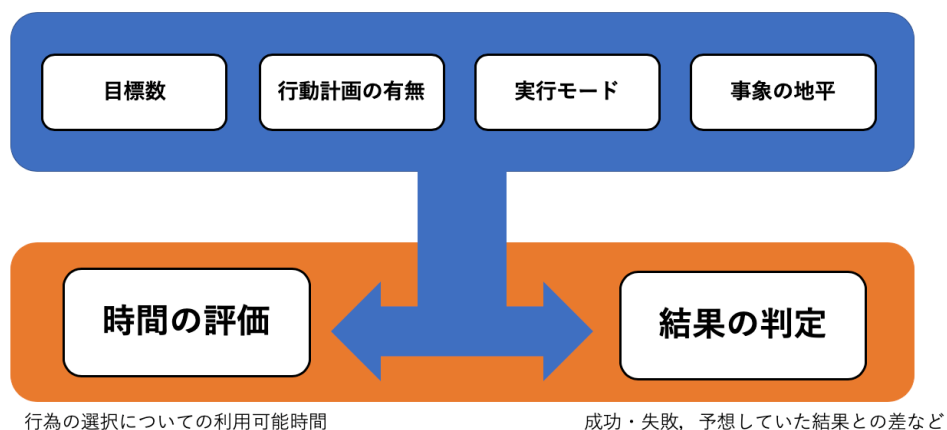
2.判断が正しいのかわからない

学習者の状況から次にとるべき行動を判断する

状況決定制御モデル（以下 COCOM） の採用（エリック・ホルナゲル 1993）

COCOM はタスクをこなす際の効率の向上を目的としたモデルで、

以下のようなパラメータから構成されている



このそれぞれのパラメータを Forest システム上での活動内容から決定できないか？

例) 目標数：枝分かれの数

行動計画の有無：常に有

実行モード：フィードバックモード

(事象の地平：履歴数と予想範囲)

困難性を低減するために

1. 今すべきこと（優先順位）がわからない

COCOM に基づいてタスクの優先順位を評価，行動選択

2. 判断が正しいのかわからない

リフレクション支援により学習者自身が状況を適切に判断する方略を獲得

➤ 今考えていること

- 認知活動と行動とをどのように対応させるのか
- 行動の中でもどのレベルまで落とすのか(ネットで調べる, Google で調べるなど)
- COCOM のパラメータに合う Forest システムの評価方法
- 行動の意思決定についてのリフレクション支援